

株式会社キッズステーション

番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025 年（令和 7 年）3 月
2. 開催場所 虎ノ門タワーズオフィス 6 階会議室 Room5

3. 委員出席

委員総数 7 名

出席委員数 7 名（対面参加 6 名、書面参加 1 名）

出席委員の氏名 重村 一（委員長）

内山 隆

樹林 ゆう子

高橋 望

金子 ありさ

桶田 大介

森川 美穂（書面参加）

4. 議題

審議作品 オリジナル制作番組「ピンキッツマジカルタイム」

第 1-4 話（計 4 話、各 14 分）について

放送日程：2024 年 1 月 6 日から 毎週土曜 15:30～15:45（キッズステーション）

審議作品概要：世界中で人気のピンキッツとベイビーシャークが、未就学のお子様に向け生活習慣やコミュニケーションを楽しく覚えたり、想像力や発想力を広げる「きっかけ」を提供する番組。ベイビーシャークダンスやピンキッツじゃんけんなどコーナー盛り沢山でお届けします。

5. 議事の概要

- ① 本作品のご感想。
- ② 他の幼児向け番組と比べ、特徴や独自性があると感じましたでしょうか。
- ③ 子どもたちが楽しみながら学べる番組になっていると感じましたでしょうか。
また、親子で一緒に楽しめる内容になっていると感じましたでしょうか。
- ④ その他、番組内の表現やテーマなどでお気づきの点などがございましたらご意見をお聞かせください。

6. 審議内容

- ・ 今の幼児たちの親兄弟はネット社会に入り込んでいる、そういう時代の幼児に対して作られる番組にはネットの要素があってもいいのではないか。幼児たちがいずれ世界の洗礼を受けることに配慮した上で作品を作らないといけないのではないかと思う。
- ・ キッズステーションができた時とほぼ同じ感覚で作成されているのではと感じた。現代における幼児番組はかくあるべきだというものを示してほしい。
- ・ 全体的に構成はきっちり作られているが、この内容でなぜ韓国からキャラクターを購入したのかがよく分からない。製作費の中で海外に払った権利金の比率と将来のリターンを考えると、ぬいぐるみ等のグッズは自分たちで開発して、商売になるものを作るべきだと思う。ガチャピンやムック、野球であればつば九郎などそういったキャラクターを生み出してキッズステーション自身が新しい収益源を作る必要がある。キャラクターは非常に大きい収益源になるのに外から持ってくるのはどうなのか。
- ・ 過去、日テレでうつみ宮土理さんがやっていたロンパールームという子供番組があった。ロンパーはやんちゃものという意味。幼児ほどやんちゃで扱いづらい存在はいない。そういう部分が番組の中に出てくるべきだと思う。
- ・ アジアに対して一歩先行していたはずの日本でもある。教養番組のモデルケースをキッズステーションで作っていかないと今後厳しいのではないかという気がする。
- ・ お行儀よくきっちりと作られているが、30年前と変わらないのでは。チャレンジしてほしいと思う。
- ・ 導入～体操～にらめっこ～じゃんけん～アニメーションといったパターンがあり、ある種の習慣性となれば見続けてくれるのかなと思う。就学前の児童をターゲットにした場合、Eテレやアンパンマンに勝てるかという疑問がある。
- ・ 1話目の導入を見た時に、背景のCGとベイビーシャークの黄色が重なって、背景と溶

け込んでるのが気になった。その一方で、その後のアニメーションがビビッドで15分番組としてのトーン感がないように感じた。

- ・ グリーンバック構成は正面から撮る場合が多いが、この作品での斜め45度のショットはパース感が効いていていいと思った。
- ・ 自分の子供は説教臭いと言えそう。NHKは子供番組を無料で見る事ができる。それに対抗するのは難しいのではないか。
- ・ ダンスは子供も真似して楽しく遊べそう。
- ・ バイ菌の扱いが勧善懲悪的で、これが悪い。これがいい。など押しつけがましく展開していると感じた。
- ・ 前提として面白くないと見ない。先に答えありきで作っている感じがする。ストーリーや種明かしがある、などの意外性が全くない。コンテンツとしてメリハリがないと途中で飽きてしまうのではないかと思う。良い悪いの物差しだけではなく、ショートストーリーがあるとよかった。
- ・ 世の中に色々なものが溢れているため、親が子供に教育にいいものだけ見せようというのは傲慢で無理だと思う。
- ・ 未就学児向けのコンテンツは一定の価値があり、楽しく見させていただいた。
- ・ 小児科の病院等、ずっとキッズステーションを流している場所もあるので、視聴習慣として気楽に見る事ができるコンテンツは悪くないと思う。
- ・ 子供は量販店で手に取った玩具やグッズがテレビでやっていると親近感を感じる。そういった立体的な展開を作る事ができるといいと思う。グッズ展開は行った方がよい。
- ・ 独自に作っている部分と外部で購入している部分に密度の差がある。購入部分のアニメはよくできていてスタジオ部分は緩い感じがする。予算をうまく使っている上手い作り方だと思うが、「目の色が違うけど仲よくなろう。」というお話は日本人には厳しいと思った。海外と日本でそれぞれ作った部分の全体のマッチングや構図に工夫の余地があると思う。
- ・ 魔法という切り口がやや強引に感じた。言葉か行動か現象なのか、定義が曖昧で分かり辛かった。魔法の言葉の『ありがとう』を覚えようとした方がよかったのではないか。
- ・ ドラマ部分はまとめた方が見やすいと思う。Aパートで問題提供、Bパートで問題解決となっているがその間にじゃんけんが入ると内容を忘れてしまうと思う。
- ・ 親が見せたい番組と、子供が見たい番組は違う。まっとうなメッセージ性をもっている番組の為、面白さが弱かった部分はあるかもしれない。親が安心して子供に見せる事ができる構造は間違っていない。
- ・ 学校の教育の時間や、通学のバスの中、お医者さんの診療室で流してもいい純度100%

の番組で、安心・安全に特化していると思った。制作の意図がそうではなく、よりマスに、より幅広くという事だとすると少し話が違うと思う。

- ・ お金を払う付加価値として、全編英語や全編体操などサブで得るメリットがあると親として嬉しい。
- ・ 自分の子供が見るかという視点では、トーマスやおさるのジョージなど、嫌な奴がいる・トラブルが起きる・でも友情で解決する。といったある種のストーリー性の強化やセンスが必要。Eテレが盤石なのはクリエイターに注意を払ってカルチャーな面を付加価値で足しているからだと思う。前衛的なクリエイターの方と組んだり、カルチャーな面、尖った面を足しても子供は受容すると思う。
- ・ 以前に拝見した科学番組よりも楽しく拝見できた。
- ・ 低い年齢層をターゲットとしている為、シンプルな作りもそういうものかと感じる。
- ・ ロンドンで見た時の子供番組に色使いなどが似ていると思った。日本的ではなくNHKと違うものを目指すのはありだと思う。
- ・ 一部のライセンスを買った作品で、こちらが作るもの、買ったものの比率をどうするかが悩ましいのだろうと思った。理想的にはまだ発見されていないメジャーなものを輸入するのが一番いいと思う。
- ・ テンポも良くて、音楽に溢れていてリズムの中で 子供たちが楽しく観られる作品だと感じました。テーマも毎回素晴らしく、挨拶の大切さや感謝の気持ちの表し方など、当たり前のことを楽しく、リズムカルに表現してある様が良かったです。
- ・ キーワードの「魔法」は独自性があり、子供時代に憧れるキーワードではないかと思います。
- ・ あさひお姉さんの冒頭の歌がキンキンしていなくて親世代もうるさく感じないのではないかと思います。また、子供たちが飽きない作り方をされていて、どんどんお話が進んでいくスピード感も良いと思います。音楽が散りばめられていることも、親子で楽しめるのではないのでしょうか。
- ・ 子供たちの生活の中で大切なことをテーマにしている事がとても良いと思います。表現も押し付け感がなく、とても自然で素晴らしいと思います。毎回、テーマごとに音楽を作っている制作サイドの努力が光っています。素晴らしい作品だと思います。

7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

番組演出の改善点など、今後作品をよりよくしていくためのアイデアも多く教示いただきました。こうした各員からのご意見を制作者に共有し、今後の制作の参考として参ります。

以上